

平成30年度第2回学校評議委員会報告

- 1 日 時 平成31年2月25日（月）15：20～16：10
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 <評議委員> 小中学校代表、学識経験者、町内会代表、PTA経験者
<盛岡三高> 中島 新（校長）、鈴木 裕（副校長）、菊池 勝彦（副校長）
浅沼 卓雄（事務長）、多田 裕也（経営企画課主任）
野崎 安衣（経営企画課） 以上10名

4 内 容

- (1) 校長挨拶 今年度2回目の評議委員会では、今年度の活動や次年度に向けてのご意見を頂きたい。再来年度から1学級減となる予定。2020年度から高等学校でも新学習指導要領。先行実施として来年度入学生より、総合的な学習の時間が総合的な探求の時間になる。2021年度より、大学入試センター試験は大学入学共通テスト、国、数、英の記述試験に加え、英語は4技能試験が民間試験を使って実施される予定。2022年度より、評議委員制度も学校運営協議会制度に変更となる。コミュニティスクール制度となり、委員の方の意見もより強く反映されるようになる。

(2) 学校概況説明

【鈴木副校長】 資料2、4を用いての説明

① 学校経営計画と教育に関するアンケート調査結果の関係について

「授業がわかる」等のアンケートの目標値と結果、授業公開率について説明。

目標値に届かない教科もあるが、教育活動に全力を注いでいる。生徒の学年が上がるにつれ、数値の良くなる項目もあり、学年が進む中での成果も上げられている。生徒の学習環境を整えるために、家庭学習の適正量の見直しも行っている。

また、キャリア教育の一環として、情報を収集する力、発信する力の両面を養う教育活動も実施している。豊かな心をはぐくんだり、自己肯定感の高い生徒を育てるため指導も行っている。授業や部活動等を通じて倫理観、道徳観が身についたと答える生徒の割合も高い。今後も三高生全員がそう思えるような指導をしていきたい。

② 各学年の対外模試の成績推移について

全職員参加による、組織的な進路指導を実施している。昨年度（H29年度は）国公立大合格率、東北大合格者数、最難関大学合格者数とも目標には達しなかったが、生徒の希望が叶えられるよう、日々の指導している。

3年生の結果が落ちているように見えるのは、浪人生の受験の影響によるもの。

今年度の3年生は10月記述、11月マークで成績上昇、浪人生と戦える状況まで力をつけてきた。

【菊池副校長】 資料5、6を用いての説明

保健室利用は、10月と12月に増加しており、約7割が内科の不調を訴えている。外科の利用は例年同様6月に多くなっている。体育大会や高総体、春先の登下校中の自転車事故も影響している。全体として今年度はのべ利用人数が増加したが、心因性の不調を訴える生徒も多く、食生活や睡眠時間など基本的な生活習慣の乱れが心配される。

インフルエンザは1月中旬から学校全体で10名程度。

部活動では文化、スポーツ両面で大きな成果を上げた。特に、文芸部の活躍が顕著。全国文芸コンクールで5年連続文部科学大臣賞受賞。全国高校総合文化祭には放送、文芸、自然科学部門で出場した。視聴覚委員会も全国大会へ出場しており、吹奏楽、音楽部は東北大会に出場した。

運動部は陸上競技、水泳、スキーが個人種目でインターハイに出場。国体は陸上競技女子走り幅跳びで第4位、ハンドボール男子岩手選抜5位という成績を修めた。水泳、スキーも国体に出場した。

新人大会岩手県大会では新体操、硬式テニス女子が優勝、ボート女子第二位、ボート男子、バレーボール男子、ハンドボール女子3位という成績を修め、個人でも入賞が多くあった。

来年度も生徒の躍進が期待されている。

【評議委員】 保健室利用で心因性とはどのような不調を訴えるものを指すのか。

【菊池副校長】 内科としてとらえている。食事の時間が不規則なことによる消化器の不調等が多くなっている。

【評議委員】 文芸部は文部科学大臣賞の受賞を目指して特別の指導をしているのか。

【中島校長】 特別な指導は行ってはないが、OBや上級生から下級生の指導が細やかにされている成果。OBはたびたび来校して指導にあたってくれている。

【評議委員】 P13の教育に数値目標の部分に2年生をあげている意図はあるのか。

【鈴木副校長】 県が実施する基礎力確認調査からとったもの。1年生は入学時の現状把握、2年生は1年間の伸びや変化を確認するものと考えているため、2年生の数値目標を上げている。

【評議委員】 保健室利用状況のページに「生徒自身もいっぱい、いっぱい」という記述がある。生徒の現状について教えてほしい。

【鈴木副校長】 P11にあるように、文武不岐の精神のもと、学習も部活もその他の活動にも全力で取り組もうという指導方針がある。生徒も日々、全ての活動に一生懸命取り組んでいる。見方を変えれば、余裕がないように見える面もあると思う。

- 【中島校長】 以前より宿題の量を調整したりしている。しかし生徒にとっては大変であると思う。
- 【評議委員】 盛岡市、岩手県の小中学校でも自己肯定感が低いことが問題となっている。
「自分には良いところがある」という質問に「はい」と答える生徒は小学校でも40～50%程度になっている。また、高学年になるほど、「はい」と答える生徒の割合は下がる傾向にある。盛岡三高では75%の生徒が「はい」と答えている点に感銘を受けた。
自己肯定感を持たせるために取り組んでいることがあれば教えていただきたい
- 【中島校長】 参加型授業がその取組みである。
- 【鈴木副校長】 本校では学年が進行するにつれて自己肯定感が高まる傾向がある。部活動等を通し、いろいろな事を乗り越えたことが自信になっている。
- 【評議委員】 2020年度から実施される新学習指導要領の総合的な探求の時間についてもう少し教えてほしい。
- 【中島校長】 教科横断型の総合学習の時間となっている。小学校では早い年度から実施される。
- 【評議委員】 探求という言葉がついたのは何を目的としているのか。
- 【鈴木副校長】 自ら課題を発見してそれを自ら解決して発表するという方針が変わる。アウトプットに重きが置かれることが明確化された。小、中、高を通じて学んだことが実際に生かされる教育をするとうことが言われている。
- 【評議委員】 実践が大切という解釈で良いのか。また、1週間あたりの時間数は？
- 【鈴木副校長】 1年生と2、3年生の文系理系コースは週1時間、理数探究コースは週2時間となっている。
- 【及川委員】 生徒同士が議論し合いながら、何をしていたら良いかを話し合い、発表したりしながら自己の振り返りをするイメージで良いか。
- 【鈴木副校長】 発表をゴールにしている。教える側も幅広い知識が求められている。
- 【中島校長】 本校はSSHがSRHとして継続活動を続けており、それが総合的な探求の時間につながっており、今後も継続していきたいと考えている。2月22日にも大学の先生方にご助言を頂きながら、SRH発表会を行った。

- 【多田】 総合的な探求の時間における小学校での取組は？
- 【評議委員】 小学校は現在、移行措置期間であり、2020年度から新学習指導要領へと変わる。外国語活動が教科科されるところが一番大きく変わる。趣旨は高校と同じで、自ら課題を発見して自ら解決していく力を養うことである。
- 【多田】 小、中、高の連携がますます大切になるように感じている。
- 【評議委員】 小学生でも、塾や習い事に等に複数通っている子がいるが、高校生の現状を教えてほしい。
- 【多田】 学習塾へ通っている生徒はかなり多くいる。
- 【及川委員】 学校としてはその状況をどうとらえているのか。
- 【鈴木副校長】 学校生活に支障がなければ、後は任意としている。
- 【評議委員】 どのくらいの生徒が通っているのか。
- 【中島校長】 おおよそ学年の半分が通っている。学校の勉強や部活動の時間を考えると、塾に通う時間を捻出することは難しい面もあると思うが、塾では学校の勉強の補足をしているようである。
- 【評議委員】 黒石野中学校の生徒が高松四丁目町内会の活動に積極的に参加してくれている。三高も高松四丁目にある学校として、協力してもらえるとありがたい。また、学校の行事等のお知らせをもっと地域に知らせてほしい。
- 【評議委員】 今年度退学や転学をした子はいたか。
- 【鈴木副校長】 1年生1人、2年生数名。今年度は不登校に対する指導のルールを変更し、できる限り三高を卒業できる体制を整えた。
- 【評議委員】 生徒は学校生活のどのような面でつまづくのか。
- 【鈴木副校長】 いろいろなパターンがあるが、理想の自分と現状にギャップがある子は休みがちになる。
- 【評議委員】 自分の長女が在学中もそうであったが、生徒同士のいざこざはそれほど無いように感じる。長女は、高校に入ったら、同級生が皆、同じ目標に向かって努力していて、生活しやすいと話していた。今年度のアンケート結果にもそのことが現れているように感じる。
- 【評議委員】 アンケート結果を見ると「高校に入学して読書をするようになった」という項目に「はい」と答える生徒がどの学年でも少ないように感じる。大学入試改革にともない、自分の考えをまとめたり、書いたりする力を養うためにも読書は必要だと思う。最近、学生、大人ともに

文章を書けなくなっている人、書いてあることが分からない人が増えていることを懸念している。教科書を読んで理解できない子がいるという大学の先生の声もある。

【鈴木副校長】 現1、2年生は朝読書に取り組んでいる。今後ともこの取組みを続けたい。

【久保委員】 スマートフォンやPCの利用により、体調を崩す生徒はいるのか。小6でもゲーム機器などの使用時間がすごく多いと感じている。

【中島校長】 夜9時以降は利用を控えるという生徒会が主体となった取組みも実施しているが、実際は長時間使っている生徒も多くいる。学習、睡眠時間等にも影響してくるので、県や国等での組織だったの取組が必要だと考えている。

【鈴木副校長】 調査をすると1日平均30～60分使う子の割合が高くなっている。

【評議委員】 利用の仕方を間違えなければ良いと思う。調べ物等には大いに活用して良いと考える。

【評議委員】 小学校ではスマホ持ち込み自由化の動きもある。これまでも安全のために持たせたいという保護者の声には個別の対応があった。今後もしばらくはこれまで通りの対応をしていく予定。

(3) それぞれの立場から

【評議委員】 来校したとき、「こんにちは」と声をかけてくれたが、すごく心のこもった挨拶だと感じた。この姿勢を今後も続けてほしい

【評議委員】 自分の目標でもあるが、児童生徒に学力や生活する力を身につけさせることが大切だと思う。資料P13のような取組がすごく良いと思う

【評議委員】 先生方は本当に大変な思いをされていると思うが、学校に期待するところも大きいので、生徒たちのためにぜひ頑張っていただければありがたい。

【評議委員】 地域の中の学校であり、高松四丁目町内会の一員という意識をもって、地域の力を学校運営に活用してほしい。学校の動きを学校に知ってもらうことも大切。高松四丁目には多くの人財がいるので、もっと地域力を活用してほしい。